

キャリアパス・研修制度

内閣府職員としての役割や将来像をイメージしやすいよう、採用1年目からのキャリアパスを紹介します。皆さんの入府後のロールモデル選択の参考に役立ててください。

内閣府では概ね2年程度で人事異動があり、様々な部局の仕事を経験します。その中で、各自の適正に応じた専門性を培っていきます。また、定期的に配属先に関する希望を申告する制度があります。

キャリアパスのイメージ

採用

入府後に、新採用職員研修を実施します。内閣府の業務概要のほか、国家公務員としての心構えなど基礎的な知識を学びます。その後、各部局に配属されます。

係員

内閣府職員の1年生として、先輩や上司から業務の内容や仕事の進め方などを学びます。また、最初は、所属課や係の窓口として、関係部署との連絡調整を行う機会も多くなります。

係長

各係の施策を達成するため、資料作成や関係部局との連絡調整といった具体的な業務の責任者となります。部下への指導も重要な役割となります。

課長補佐

様々な部局を経験する中で培ってきた専門性を活かしつつ、課の施策の取りまとめなど、課長を支える重要な役割を担います。

管理職

課や室の施策責任者として、各種会議に出席する機会も多くなります。また、課室員全体のマネジメントも重要な役割となります。

内閣府のロールモデルの例



1. 官邸直結の政策マネジャー・プロジェクトマネジャー

総理のリーダーシップを支える中心的な存在として、官邸や特命担当大臣に直結し、国政上重要な政策の企画立案・総合調整を行う。

2. 組織基盤を支えるエキスパート

内閣府のみならず、官邸・内閣官房を含め、国会業務や総務・会計部門等のエキスパートとして、行政運営の基盤を支える。

3. 国民目線に立った政府のセンタープレーヤー

社会の在り方、国民生活に密接に関わる分野において、国民目線に立って政府部内を強力に調整し、政策を推進する。

4. 政策・制度に立脚し、現場との接点を持つ政策分析専門家

経済財政、科学技術分野等、政策・制度の企画立案に貢献する人文・社会・自然科学的知見を実証に基づき提供する。

5. 総理直轄分野の政策プロフェッショナル

栄典行政、公式制度、公文書管理など国家の基盤に関わることや、沖縄政策・北方対策など特別の理由に基づき総理が担当することがふさわしい分野におけるプロフェッショナルとして政策を推進する。

研修制度について

各種研修・働き方改革セミナー等

幅広い業務を担っている内閣府では、職員の成長、専門性の向上等のための機会や独自の研修制度が整備されています。

研修等

新採用職員・若手職員・管理職向けなど、各階層で必要なスキルを身に付けられる研修のほか、国会業務、会計実務等の配属先で必要となる知識を学べる研修や、Excelスキル、経済分析手法等を学べるスキルアップ研修等もあります。また、幹部候補育成過程に選出された職員は、内閣人事局が実施する研修などを受けることができます。このほか仕事をしながら大学へ通っている先輩職員もいます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
若手向け研修	新採用職員研修						2年目職員研修					
EBPM研修	オンデマンドで受講可能なeラーニング講座を通年実施											
実務研修	国会研修				法制執務研修				国会研修			
技能育成・向上プログラム	公文書管理、個人情報の適切な管理、情報システム・セキュリティ、広報等に関する研修(随時又はeラーニング)											
経済分析等に役立つExcel技能研修				Excel基礎編 Excel(マクロ・VBA) 初級～応用			Excel基礎 Excel(マクロ・VBA) 初級～応用					
経済社会関連統計研修		GDPを学ぶ 国民経済計算(SNA)ステップアップ		季節調整法研修				アンケート調査入門 標本調査入門				
経済理論研修						前期経済理論研修		後期経済理論研修				
計量経済分析研修				計量経済分析入門(基礎編)		計量経済分析入門(応用編)		時系列分析実習				
学会、国際会議への参加		日本経済学会(春季大会)での発表				日本経済学会(秋季大会)での発表		OECD WP1での発表		アメリカ経済学会年次総会参加		OECD WP1での発表



Message 01

補佐級の職員

賞勳局審査官付審査官補佐 (調整・審査第一担当)

桑原 佳代 *Kuwahara Kayo*

平成 16年 賞勳局審査官付審査第五係
 平成 19年 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室
 平成 21年 日本学術会議事務局参事官 (審議第二担当) 付審議専門職付
 平成 23年 内閣官房内閣総務官室
 平成 25年 公益認定等委員会事務局総務課調整係長
 平成 26年 育児休業
 平成 27年 内閣官房内閣人事局
 平成 28年 育児休業
 平成 29年 日本学術会議事務局企画課広報係長
 令和 2年 大臣官房政府広報室広報第1担当主査
 令和 4年 賞勳局審査官付審査官補佐心得 (調整・審査第一担当)
 令和 5年 現職

■内閣府で働くことについて

現在の賞勳局では、勲章・褒章の審査を担当していますが、先例のみに捉われず多角的な観点から審査を行う必要があります。以前の政府広報室では、1つの広報テーマに関係省庁が複数あり、各省庁担当者と意見交換しながら、よりターゲットに響く広告の内容に調整していく必要がありました。内閣府では、このように各省や現場の問題意識に耳を傾け、意見交換を行い、時に粘り強い調整を行いながら、広い視点に立って業務に取り組む場面が多くあります。実は係員の頃、異動のたびに全く異なる業務を担当し、それぞれにやりがいを感じながらも、自分に強みがないような気がして、焦りを感じた時期もありました。しかし、幅広い分野での経験や多様なバックグラウンドを持つ方たちとの出会いを経て、少しずつ、様々な立場に立って物事を捉えられるようになり、こうした経験が自分の強みであり、確実に今の業務にも活かされていると考えるようになりました。

■補佐級の職員になって感じたこと

課長補佐になって、業務面では自身の裁量に委ねられる場面も多くなり、非常に大きな責任を感じます。また、各係の業務全体を見渡し、アドバイスや軌道修正することはもちろん重要な役割ですが、最も大事に考えているのはチームのワークライフバランスです。係を一番近くで見ている上司として、業務分担は適切か、誰かに負担がかかりすぎていないかなど、日頃のコミュニケーションを通じて把握し、問題があれば改善するようにしています。



■仕事とプライベートの両立について

プライベートでは小学生2人の子供の母でもあります。子供たちが保育園の時は「育児時間」の制度を活用して勤務時間を1時間短縮していましたが、下の子供が小学生になった現在は、「早出制度」を活用して、他の職員より少し早めの9時出勤のフルタイムで働いています。この原稿を書いている今日は、子供がインフルエンザのためテレワークで勤務しています。内閣府には多様な働き方のサポートがありますし、近年はテレワークも普及したことで、より育児と仕事の両立がしやすい環境になったと思います。

■内閣府が求める人材について

業務が多岐にわたることに加え、社会情勢の変化に伴って所掌業務自体も変化しますし、各省や民間からの出向者も多い環境です。一緒に働きたいと思うのは、様々な状況変化をポジティブに楽しめる人、勉強熱心で、人の意見に耳を傾けられる人、柔軟な考え方ができる人です。

■あなたにとって仕事とは？

もちろん楽しいことばかりではないですが、皆で協力して困難な業務を完遂した時の達成感は代え難いものがあります。仕事は、そうして自分を成長させてくれる場所であると同時に、素晴らしい出会いの場でもあります。内閣府や出向先での仕事を通じて出会った素晴らしい先輩、友人達からは、いつもよい刺激を受けています。



Message 02

係長級の職員

経済社会総合研究所景気統計部研究専門職

望月 亮治 *Mochizuki Ryoji*

平成 20年 賞勳局審査官付審査第九係
 平成 22年 大臣官房総務課調整第2係
 平成 24年 政策統括官 (沖縄政策担当) 付参事官 (企画担当) 付企画第1担当主査付
 平成 26年 迎賓館京都事務所運営課運営係長
 平成 28年 大臣官房政策評価広報課報道室
 平成 30年 経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課研究専門職
 令和 2年 政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事官 (地域担当) 付政策企画専門職
 令和 3年 大臣官房人事課職員係長
 令和 5年 現職

■内閣府で働くことについて

冒頭にも紹介がありますが、内閣府は、内閣の重要政策に関する内閣の事務を助けることを任務とすると法律で定められており、その所掌は職員からの紹介ページにもありますようにとても幅広いです。従いまして、常に社会情勢の変化に対応することが職員には求められていると感じています。私自身でいうと、入府当時にはなかった組織や部署が次々と立ち上がったりと、業務の内容自体やそのやり方が変わったりするなど、そういった変化というものを実感しています。近年のコロナ禍においては、皆さんも緊急事態宣言の発出等により飲食店や小売店が営業しなくなったというのを目にされたかもしれませんが、私は当時、経済財政分析担当の地域担当におり日本の各地域の経済指標等をウォッチしておりました。その際は月次統計などの従来のデータだけでなく、高頻度の週次や日次データの分析を行うことにより、社会が目まぐるしく動いてく様を見ることができました。社会や政治の変化に応じて業務内容に影響を受けることから、霞が関の本省で働いているということを感じます。

■係長級の職員になって感じたこと

係員であったときと比べての変化として、一つの担当を任されるということと部下をもつということが挙げられると思います。自分ひとりでは担当係の業務を遂行することはできませんので、係員と協力して業務を行うとともに、その進捗を管理し作業効率を意識するようにしています。また、今まで同じ部署に配属されたことはないのですが、自分が経験してきたことが部署は変われど活かされていると感じており、何事もまずは挑戦してみることが大事であると痛感しました。

■仕事とプライベートの両立について

業務の継続性と自身の健康管理については常に考えるようにしています。仕事は代わりに誰かが行うことができますが、自分自身のことは自分でしかすることができません。また健康でないと仕事もプライベートの活動も何もできなくなってしまいます。そういった観点からも、業務を属人化せず同僚と共有するとともに、同僚・後任者などが作業内容や経緯を追えるような資料づくりを意識するようにしています。また、仕事にはいつも全力でと言いたいところですが、突発的な

事態にも対応できるよう常に余裕をもって取り組めるようにと考えています。プライベートでは休日は極力業務のことは考えないようにし、家族と過ごす時間を大切にすることを意識しています。

■内閣府が求める人材について

現在は経済社会総合研究所で景気統計に関する業務を行っていますが、これまで国会対応に専ら従事したり沖縄振興政策に携わったりと多様な業務に従事してきました。異動ごとに業務の内容は変わりますので、これまでの経験を活かせることも多いですが、新たな知識・技能を身につける必要がありますので、常にスキルアップを心がけることが重要です。また、内閣府には、他省庁や地方自治体、民間企業などからの出向者もあり、バックグラウンドが異なる方々と一緒に働くことが多いです。人と人の関係についてはどの職場においても言えることですが、意思疎通を図ることや他者を尊重することが大事だと考えています。

■あなたにとって仕事とは？

労働の対価として賃金を得るとというのが前提になりますが、社会の構成員としての務めを果たすということだと思います。農産物や工業製品を作る人もいればサービス産業に従事する人もいる、そういった中で、自分は公共サービスを提供する業務に従事している、という認識です。所属する組織・扱う商品に違いはありますが、他の職業と本質的な違いはないものと思います。



内閣府の働き方改革やDX推進の取組状況を紹介します。

知恵の場そして企画立案・総合調整機能を有する内閣府は、各省庁、民間、自治体からの出向者等が多く活躍しており、ダイバーシティに富んだ組織です。そのため、様々な専門性や背景を有する職員一人一人が生き生きと活躍できるよう、働き方改革やDXの推進に取り組んでいます。

令和4年、内閣府は、大臣官房に働き方改革・DX推進室を設置しました。そして、令和5年には、行政の生産性や情報セキュリティの向上、そして職員が柔軟に働けるよう、政府共通の標準的なPCやネットワーク環境（ガバメント・ソリューション・サービス（GSS））を導入しました。これにより、デジタル環境が大きく変化し、チャットや自動化のためのアプリケーションの活用、また、テレワーク時における個人所有のPCやスマート

フォン・タブレットの業務への活用（BYOD）など、業務効率化の幅が広がり、柔軟な働き方、コミュニケーションの活性化が進んでいます。また、職員のデジタル・リテラシー向上のため、各種研修や勉強会も開催しています。さらに、1on1ミーティングや管理職クラスにマネジメントや職場の状況をフィードバックするための「多面観察」の実施、「学習する組織」の定着など、組織の在り方、マネジメントの在り方についても取り組んでいます。

働き方改革・DX推進室は、内閣府のミッションを実現するために、職員が生き生きと、働きやすい職場環境づくりにこれからも取り組んでいきます。

内閣府のミッション

- 国政上の重要課題への解決を主導する「知恵の場」
- 国政全体を俯瞰した立場からの企画立案・総合調整
- 内閣総理大臣が直接担うにふさわしい業務を担当

内閣府のビジョン

- 国全体の在り方を考えた行政の実現を目指す組織
- 多様化・複雑化する課題に対しアジャイルに対応する「学習する組織」
- 組織と職員、職員間の信頼関係が高く、ワークライフバランス実現のための環境を備えた組織

CROSS TALK

内閣府の働き方改革・DX推進に取り組んでいる職員を代表して3名の方に活動内容をお聞きました。

まず、皆さんが、この取組を始めたきっかけは？

●朝倉 働き方改革・DX推進室ができる前、内閣府職員が、責任と誇りを持って、生き生きと働ける職場環境作りの推進を目的とした職員提案型プロジェクト「内閣府かえるプロジェクト」があり、私はその活動に参加していました。また、育児休業を取得した経験もあり、「イクメンになりたい！」



という思いをきっかけに、組織のマネジメントについても勉強を始めていました。そのおかげで、働き方改革にも前向きだったため、この取組への参加を決めました。

●田村 私の場合は、通常の人事異動の枠組みの中で、この取組に接することになったことがきっかけでした。取組みを進めていくにつれて、組織の在り方や個人の働き方などについて、深く考えるようになり、今はDXを含め新しいことに前向きに挑戦しています。

●戸田 各省庁や民間など様々なところから職員が集まる内閣府において、皆さんがその能力を最大限発揮するために、何かサポートができないかと思ったのがきっかけで入りました。私自身、民間企業で何年も働いた後に内閣府に入りましたので、そうした思いが強かったです。例えば、異動のたびに必要な庶務手続きが多く、まずはそういった身近なところから改善して業務を効率化したいと思ったこともきっかけの一つです。

●田村 働いていた会社でもこのような活動には参加されていたんですか？

●戸田 以前は特にしていませんでした。内閣府に入ってこれから長く働くにあたって、自分がどう生きていこうかを考えたら、より多くの人と横のつながりをもち、働きやすい環境を作りたいと思ったので、この活動に自発的に飛び込んでみました。メンバーそれぞれが持つスキルを活用しながら、よりよい職場環境にしたいという同じ目標に向かって取り組んでいるので、とても前向きな議論ができていますね。

●朝倉 横のつながり、私も大事だと思います。

●戸田 自分のネットワークも広がります。例えば何か調査をしようと思った時、前例や知りたい情報を他の部局の仲間にもどんどん聞くことができるようになったので、本来の自分の業務もやりやすくなっています。

●朝倉 メンバーの多くは本来の業務の傍ら、働き方改革やDX推進に取り組んでいるので、



政策統括官（共生・共助担当）付 参事官（障害者施策担当）付参事官補佐

朝倉 亮

Asakura Ryo

●平成15年入府

政策統括官（経済財政運営担当）付 参事官（総括担当）付政策企画専門職

戸田 絵美

Toda Emi

●令和2年入府

大臣官房人事課研修係長

田村 翔一

Tamura Shoichi

●平成22年入府

それぞれが発案し、できることをやっているイメージです。上司の理解を取って一つ一つ進める仕事の仕方とは違っていますが、自然と能動的になり、メンバーはみんな協力的です。

具体的にどのような取組を行っているの？

●田村 職員向けの広報として「カエル通信」や「カエル小話」を作成したり、外部からの情報をもっと積極的に取り入れていこうということで、他省庁や民間企業などの働き方改革・DX推進に取り組まれた方をお呼びして講演会や勉強会を行っています。最近では、デジタルツールを活用した業務効率化にも取り組んでいて、その成果が出てきています。メールだけでなくチャットを活用したコミュニケーションの迅速化だったり、同時に多人数で文書を共同編集するツールを



活用したり、試行的に業務を自動化できるアプリを使ったり、仕事の仕方も徐々に変わっています。

●朝倉 コミュニティ活動という取組もあります。ICTスキルや知識は各職員によって異なりますので、今は90日間でITパスポートの資格を取ろうという活動を希望者対象に行っています。週1回お昼休みに内閣府審議官から係員までのメンバーが集まって勉強の進捗を報告しあったり、わからないところを教えあったりしています。

●戸田 各部局の庶務担当者が負担となっている業務を少しずつ軽減するような取組を進める庶務コミュニティもありますよね。みんなが働きやすくなるように、知恵を出し合う取組は、組織全体にとって非常に大事だなと思います。

内閣府を志望している方へメッセージ

●田村 働き方改革というのは自分が働く場所を改善していくことになるので、自分のためにもなりますし、意義があります。組織のため、職員のためにどんどん周りを巻き込みながら取り組んでいます。

●戸田 本務ではアイデアがあっても自分の意思だけで仕事を進めることはなかなか難しいですが、この活動は年数が若くても、新人でも、自分の発想を活かすことができます。目に見える成果として現れるので、やりがいもあります。



●朝倉 戸田さんが先ほどおっしゃっていたように、所属するところの知り合いだけではなく、横のつながりができて、仲間が増えて、困ったときに話せる相手が増えます。知識も増えるし、仕事もしやすくなりますよね。

●全員 皆さんのことを内閣府で待っています！

こんなことも・・・

働き方改革の取組の一つとして、内閣府が入る合同庁舎8号館では、令和4年からキッチンカーの営業が開始されました。食堂・喫茶やコンビニに加え、月曜日から金曜日までキッチンカーによる日替わりメニューが提供され、ランチのわくわく感が向上しています。



内閣府のワークライフバランス

職員が仕事と家庭を両立できるよう、様々な支援制度が用意されています。

パパ・ママ予定届

子どもが生まれる予定の職員を把握することで、職員が上司に気兼ねなく相談し頼ることができ、産休・育休を取得しやすい環境整備に取り組んでいます。



テレワーク

子育てや介護の関係で勤務条件に制約がある職員でも、そうでない職員も、柔軟な働き方ができるよう取組を進めています。

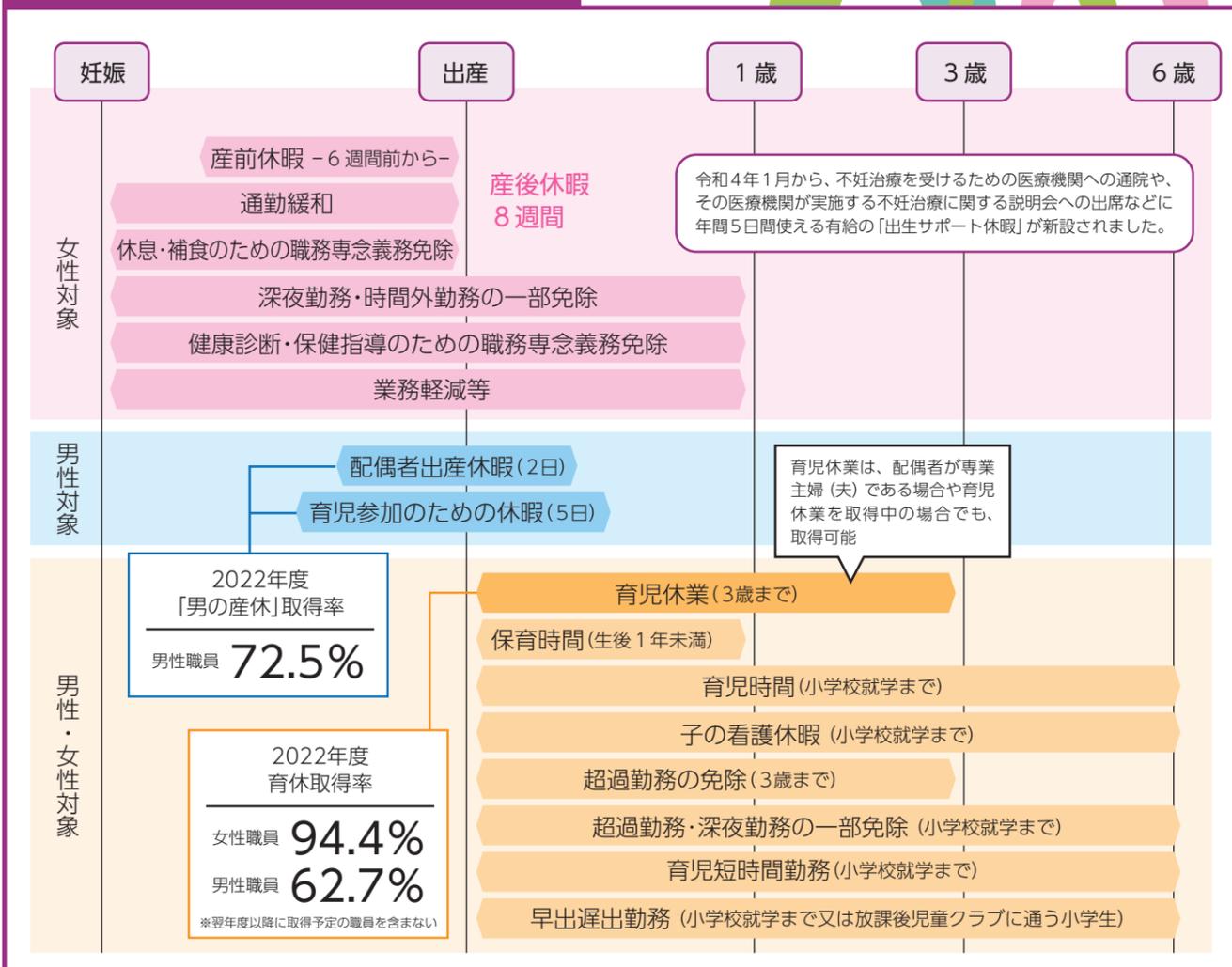


ウェルビー会

職場でも職場外でも、やりがいと生きがいを日々感じながら充実した人生を送るためには、内閣府職員のwell-being向上が何より大事!!をコンセプトに、毎月1回、子育てや趣味・府内で日ごろ感じていること等、年代や職位にこだわらず自由に話し合う場があります。



仕事と子育ての両立のための制度



育児休業取得者からのメッセージ

政策統括官(経済財政運営担当) 付
参事官(総括担当) 付総務専門職
平成16年 入府

矢澤 理子
Yazawa Satoko

●育児休業中に感じたこと

育児休業復帰直後は子供のことで頭がいっぱいで、当時の記憶もあまりないほどめまぐるしい日々を送っていました。しかし逆を言えば、それは「育児を中心に仕事をさせてもらった」という現れだと思います。そこから十数年が経ち、今は休暇や共済等のあらゆる面で仕事と家庭を両立できる制度がさらに充実しています。性別や年齢を問わず、ライフステージに応じた働き方が根付いてきていると感じています。



●復帰後の仕事について

政策統括官(経済財政運営担当)で、給与・共済・庶務業務を担当しています。私の仕事は職員のみならず、職員のご家族の生活にも関わるもののため、常に丁寧な対応を心がけています。特に出産・育児に関連するものは、実際に自分が経験したことが活かされていると感じています。

●育児休業の取得前・後でどのように働き方が変わりましたか

私は2度の出産・育児休業を経験しました。特に1回目の職場復帰では、母親モードからの切替えができず大変でしたが、復帰先の上司や同僚からの多大な配慮のお陰で両立することができました。子供が幼い時は圧倒的に家庭の方が大変だと思います。その時に幾度となく家庭を優先させてもらったことの職場への感謝の思いが、子供が大きくなった今、私が内閣府で働く原動力の一つになっています。この経験を踏まえ、育児休業から復帰する職員に対しては、心身ともに大変な状況の中で頑張ってくれているという思いを常に持ち、「今度は私が支える番」と考え日々仕事に取り組んでいます。

●育児と仕事の両立を考えている学生にメッセージ

人生は時として仕事よりも優先しなければならないステージが必ず訪れます。出産や育児はまさにその時かと思えます。私たちは皆さんがその時を安心して過ごせるよう、職場の様々な体制を整えてサポートしていきます。いつか振り返った時に、「内閣府だから仕事を続けることができた。」と思ってもらえるよう、あたたかい職場作りをこれからも続けていきます。



●育児休業中に感じたこと



私は、有給休暇と育児休業を合わせて約1年4か月取得しました。職場の上司や同僚の理解とサポートに心から感謝しています。私の家庭では、妻が先に仕事に復帰し、1年間は主に私が育児を担当していました。子供と一緒に児童館のクラブに参加したり、動物園や水族館に行ったりしながら、成長の一步一步を目の当たりにすることができた貴重な時間でした。

仕事に復帰してからも、子供の送迎や夕食の準備などのために、育児時間制度を利用して、周囲の御協力を得ながら、育児と仕事の両立に挑戦しています。

男性が主に育児を担当することはまだ珍しいかもしれませんが、私は、夫婦のどちらが担当しても構わないと考えています。重要なことは、パートナーと育児の分担や役割について、しっかりと話し合うことだと思います。

大臣官房会計課自動車係長 佐藤 魁
Sato Kai
平成25年 入府

●復帰後の仕事について

大臣官房会計課自動車係として、内閣府・内閣官房で使用する車両の調達・管理や運転手のサポートを行っています。

●育児休業の取得前・後でどのように働き方が変わりましたか

育児休業前は残業が多く、仕事に集中していましたが、今はお迎えの時間に間に合うように、時間の制約がある中で、効率的に仕事をこなす必要があります。そのため、時間管理や優先順位の設定を徹底しています。また、仕事と育児のバランスを保つために、仕事中は仕事に集中し、家に帰ったら子どもとの時間を大切にすることに切替えを意識的にしています。

●育児と仕事の両立を考えている学生にメッセージ

育児と仕事の両立は、新しい挑戦です。仕事の仕方を変えなければならないこともありますが、それは自分の成長の機会でもあります。ただ、両立は一人ではできません。職場の方々や家族のサポートが必要です。自分が成長することで、今受けているサポートを後輩に返せるようになりたいと思います。



内閣府を志望した理由は？

内閣府の所管する多様な業務に携わることで、多角的な視点から社会に貢献できる点に魅力を感じたからです。

内閣府は幅広い業務を担っているため、様々な角度からより良い社会づくりに携わることができることに魅力を感じました。

内閣府では多様で横断的な政策に携われるため、多角的な視点や幅広い知識を身につけられる点に魅力を感じ志望しました。

他の省庁にはない多種多様な業務に携われる機会があるからです。様々な角度から社会の課題解決に向け貢献できるところに魅力を感じ、志望しました。

多岐にわたる業務を経験することができ、また携わる業務ごとに必要となる専門知識が違ってくるため、自分自身が成長できる機会が多くあると強く思い、内閣府を志望しました。

多種多様な業務に取り組めることに魅力を感じ、国の機関として国や人を支えられる仕事に携わりたかったからです。

様々な業務に携わることができるので、幅広く自分の知識や経験を積むことができ、成長の機会が多いことが理由です。

各省より一段高い立場から、国政上の重要な政策について企画立案・総合調整等を行う組織の一員になり、国に貢献したいという思いで志望しました。

幅広い業務を経験できる点に魅力を感じ志望しました。自分では気付かなかった興味や関心のある分野に出会えるチャンスが多くあると考えています。



2023年度入府者からみなさんへ

2023年度に入府した先輩たちのメッセージを通して、彼らの志、そして内閣府をメッセー

ジを通して、内閣府の印象、目指すみなさんへの紹介をします。

仕事上の夢や目標は何ですか？

突発的な事態が起きても、常に冷静かつ正しい判断力を持って、着実に対処していける職員になりたいです。

様々な部局の業務を経験し、多角的な視点をもって考え、多岐にわたって活躍できる人材になりたいです。

一步先のことを想定しながら、周囲と協力して冷静に役割を全うできるような職員になりたいと思います。

仕事を通じて自分の専門分野を作り、それが内閣府そして日本のために役に立てばいいと思います。

様々な業務を通じて知見を広げ、上司や先輩、同僚から仕事を任せてもらえるような職員になることを目標としています。

多くのことを経験し知識を深め、業務に活かしていくとともに、一緒に働いている職員の方々から信頼して仕事を任せていただけるようになることです。

日々の業務を通して深めた知見を活かし、どのようなことにも臨機応変に対応できる職員を目指しています。

多種多様な業務に対して、今まで得た知識を生かし円滑に業務を進められるようになることです。

内閣府では、多種多様な業務に携わることができるので、幅広い視野と知識を身につけ、様々な分野で活躍できる職員になりたいと思います。

重大な事案を扱いプレッシャーもありますが、人のためになる魅力的な仕事ができると思います。一緒に働けることを楽しみにしています。

新しい発見や経験にあふれた職場です。好奇心旺盛な皆さんの入府を、心よりお待ちしております。

入府以来、一番印象に残っている仕事は？

内閣府HPに新たなページを作り、公表した時です！見やすさや何を載せるか考えているときは、苦しくも楽しい時間でした。

春秋叙勲・褒章の審査です。宮中で行われた親授式・伝達式で受賞者の方々の喜ばれている姿や、新聞やマスコミなどで報道されているのを見て、大きな達成感を感じました。

大臣が出席する沖縄振興関連イベントの準備に携わったことです。府内外の関係者との連絡調整など、とても良い経験になりました。

作成に携わった統計の公表です。世に出た瞬間は緊張もありましたが、達成感があり嬉しかったです。

内閣改造です。私たちの仕事は常に世の中から注目されるような仕事ばかりですが、各大臣が交代する内閣改造は大きなイベントの一つであり、様々な面で携わることができたのは大きな経験となりました。

日本学術会議の最大のイベントである総会の開催運営に関わることができたことは印象に残っています。



職員向けに情報リテラシー向上のための勉強会を開催したことです。フォームを用いた参加者の取りまとめ、会場設営、アンケートの実施など行い最終的に参加者の方から、受講して良かったと言ってくれたときは達成感を感じました。

事業者が数社いる中で入札の司会進行をする仕事です。とても緊張しますが、落札決定したときは達成感と安堵感を両方味わうことができます。

四半期別GDP速報の公表です。HP作業など、公表に向けた作業は毎回緊張しますが、無事に公表されると達成感でいっぱいです。



入府を目指す学生へメッセージ

期待以上の、楽しくやりがいのある環境に出会える場所です。皆さんと職場でお会いできるのを楽しみにしています！



内閣府は幅広い分野の業務や、多種多様なバックグラウンドを持った先輩方と働ける刺激的な職場です。みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています！

明るい職場であり、日々成長できる場でもあります。人生の転機となる就職で、内閣府を選んでいただけたら嬉しいです。

内閣府では多種多様な業務に携わることができ、日々刺激を受けながら楽しく過ごしています。一緒に働ける日を楽しみにしています！

入府前は堅い職場だと思っていましたが、上司や先輩は優しく面白い方々ばかりです。説明会などで積極的に庁舎を訪問し、実際に働く人や職場を見てみると良いと思います。

バックグラウンドを持った方々と一緒に働ける職場だと思います。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

頼もしい先輩方や尊敬できる上司と一致団結し働くことができる職場です。是非、みなさんも挑戦してみてください！

内閣府から出向したり、他省庁から内閣府に出向していたりと、様々な

内閣府では多くの部局があることにより、他省庁では経験できないことを多く体験できるので、仕事をしていく中で自分のやりたい事と出会えると思います。

みなさんからのよくある質問や業務説明会、 近年の採用状況についてご案内いたします。

Q1

内閣府ではどのような人材を求めていますか？

A1

内閣府はその任務が広範多岐にわたり新たな行政課題を担当する機会が多いことから、特定の分野に偏らない「広い視野」と優先順位を的確に判断できる「バランス感覚」が求められます。ただし、これらの能力は内閣府で仕事をしているうちに自ずと磨かれていくものです。内閣府の使命に興味を持ち、国政の中枢で働くことへの意欲にあふれた方をお待ちしています。

Q2

出身学部や試験区分の違いは採用に影響しますか？

A2

幅広い業務を所掌する内閣府では多様なバックグラウンドを持った人材を求めています。採用はあくまでも「人物本位」です。我が国の経済・社会の在り方や国政上の重要かつ最新の課題について旺盛な知識意欲を持って学ぶ姿勢、官民間問わず様々な方と対話できるコミュニケーション能力などを評価しています。官庁訪問では、「ありのままの自分」をあなた自身の言葉で語ってもらえれば良いのです。

Q3

採用後は自分が興味を持っている分野へ配属されますか？

A3

配属先は、職員の希望を踏まえつつ、人材育成上の必要性などを総合的に考慮して決定されます。また、人事異動は概ね2～3年毎に行われ、様々な業務を経験することにより、能力・適性に応じた専門性を培っていくこととなります。したがって、常に希望どおりの人事異動が行われるとは限りませんが、少なくとも入府後の数年間は国家公務員としての基礎体力を備えるための良い機会だと思って、何事にも積極的に挑戦しててください。なお、配属先に関する希望を申告する制度も用意されています。

Q4

給与はいくら支給されますか？

A4

一般職（大卒程度）試験で採用された職員は月給242,640円、一般職（高卒者）試験で採用された職員は月給207,120円です。なお、職歴等がある場合には、この金額にさらに加算された金額となる場合もあります。採用後の昇給は毎年1月1日に行われます。この他、扶養手当（扶養家族がある者に、配偶者6,500円等）、住居手当（賃貸のアパート等に住んでいる者等に最高28,000円）、通勤手当等の諸手当が支給されます。さらに、6月と12月に期末手当・勤勉手当（いわゆるボーナス）が勤務成績等により異なりますが、標準の場合には、1年間に俸給等の約4.42月分が支給されます（採用直後は勤務期間が短いため、減額されます）。

Q5

採用後の社会保険等はどのようになりますか？

A5

内閣府の職員として採用されると、内閣共済組合に加入します。共済組合では、職員の給与から徴収される掛金を基に、病気やケガ等をした際の医療給付や退職後の年金給付を行っています。これらは健康保険や厚生年金に相当するもので、職員が安心して職務に専念できるように生活面から支える制度として設けられているものです。この他、福利厚生としては、定期健康診断の受診、保養施設の利用、マイホーム購入時の資金融資等が用意されております。

Q6

転勤や出向はありますか？

A6

内閣府の勤務地は、主に東京都となります。多くの省庁のように数年おきに転勤を繰り返すことはありませんので、単身赴任等を心配することもなく、安心してライフプランを設計することができます。一方、内閣府では他省庁との人事交流を積極的に行っています。現在の主な出向先は右図の通りです。特に内閣官房へは多くの職員が出向しており、国政の中枢を支えています。また、能力や適正に応じて、在外公館等に出向する機会もあります。多様な行政分野や価値観に触れ、考え方の幅を広げる重要な機会となっています。

主な出向先

他省庁・地方など

総理官邸などの内閣官房、内閣法制局、宮内庁、警察庁、消費者庁、総務省、外務省、文部科学省、国土交通省、環境省、復興庁、参議院、沖縄総合事務局、独立行政法人など

在外公館

クローチア大使館、スリランカ大使館、チリ大使館

（令和6年2月現在）

内閣府の業務説明会のご案内

内閣府では、内閣府への興味や理解を深めていただくため、業務説明会などのイベントを実施しています。業務説明会では、内閣府の役割・特徴や非常に幅広い業務内容について、採用担当職員がわかりやすく説明します！その他、若手職員がこれまでの経験や職場の雰囲気などをお話するコーナーや、より具体的な業務の内容を聞いたり、質問したりしやすいように少人数制による座談会も開催しています。内閣府に関心のある方もない方もぜひご参加ください。あなたのやりたいことがきっと見つかるはずです。

最新情報は、内閣府ホームページからチェックしてみてください！



近年の採用状況

採用年度	一般職（大卒程度）		一般職（高卒者）	
	採用男性	採用女性	採用男性	採用女性
令和2年度	8名	12名	9名	9名
令和3年度	6名	12名	7名	9名
令和4年度	8名	8名	5名	11名
令和5年度	9名	12名	7名	11名
令和6年度	6名	9名	10名	11名

その他、聞きたいことや確認したいことがありましたら、「内閣府一般職採用担当窓口」までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

内閣府一般職採用担当窓口 大臣官房人事課任用係
〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 TEL:03-5253-2111 (内線31343)



内閣府

内閣府一般職採用担当窓口 大臣官房人事課任用係

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 TEL: 03-5253-2111(内線31343)

<https://www.cao.go.jp/>



◆内閣府本府庁舎 / 中央合同庁舎第8号館

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1

<内閣府本府庁舎>

- 大臣官房(会計課、政府広報室、厚生管理官)
- 政策統括官(原子力防災担当)
- 知的財産戦略推進事務局
- 賞勲局

<中央合同庁舎第8号館>

- 大臣官房
(総務課、人事課、企画調整課、政策評価広報課、公文書管理課)
- 政策統括官(経済財政運営担当)
- 政策統括官(経済社会システム担当)
- 政策統括官(経済財政分析担当)
- 政策統括官(防災担当)
- 政策統括官(沖縄政策担当)
- 政策統括官(共生・共助担当)
- 男女共同参画局
- 沖縄振興局
- 経済社会総合研究所
- 科学技術・イノベーション推進事務局
- 北方対策本部

◆中央合同庁舎第4号館

〒100-8970 千代田区霞が関3-1-1

- 消費者委員会事務局
- 国際平和協力本部事務局

◆永田町合同庁舎

〒100-0014 千代田区永田町1-11-39

- 地方創生推進事務局
- 健康・医療戦略推進事務局

◆迎賓館

〒107-0051 港区元赤坂2-1-1

◆宇宙開発戦略推進事務局 ◆総合海洋政策推進事務局

〒100-0013 千代田区霞が関3-7-1

◆日本学術会議

〒106-8555 港区六本木7-22-34

◆沖縄総合事務局

〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1
那覇第2地方合同庁舎2号館